



明治

## 1904 (明治37)年

日露戦争勃発(～1905年)

青木繁が房州布良(現館山市)で「海の幸」を描く

## 1905 (明治38)年

源村(現東金市・山武市)が内務省の英文パンフレットで「日本帝国の3模範村」の1つと紹介

林董(佐倉藩医佐藤泰然の第5子)が外務大臣に就任

浦賀村(現旭市)にペスト患者発生。予防上の注意を諭告

千葉県落花生同業者組合が結成

## 1906 (明治39)年

伊藤左千夫、『野菊の墓』を「ホトギス」に発表

千葉県最大級の飯野村(現富津市)内裏塚古墳の石室発掘

## 1907 (明治40)年

多古農学校(多古町)創立

陸軍最初の第1鉄道連隊が千葉町(現千葉市)に配備

千葉刑務所(千葉市)が落成

## 1908 (明治41)年

野田町(現野田市)大火(全町の1/3が焼失)

国内初の無線電信局、銚子町(現銚子市)に創設

鈴木三重吉(後に童話童謡雑誌「赤い鳥」創刊)が成田中学の教頭に着任

銚子沖の大暴風雨で漁夫1,054名遭難

## 明治から大正そして現在の千葉県の礎が

## 昭和へ。産業・インフラ・文化の各分野で築かれる



明治後期

### 千葉県ゆかりの文学者



国木田独歩(撮影日不詳) / 朝日新聞社



伊藤左千夫(写真左・撮影1905(明治38)年) / 山武市歴史民俗資料館

明治期には多くの文学者が活躍したが、その中でも千葉県にゆかりのある2名を紹介する。

1人目は、上総国武射郡殿台村(現山武市)出身の歌人、小説家の伊藤左千夫。伊藤は正岡子規の門下に入り、後に雑誌『馬酔木』、『アララギ』を創刊し、アララギ派の中心人物として知られている。

2人目は、銚子出身の詩人、小説家の国木田独歩。国木田は日清戦争には記者として従軍し、その従軍記録である『愛弟通信』は人気を博した。著書に『運命』『武蔵野』『牛肉と馬鈴薯』などがある。

明治後期

### 日清・日露戦争における佐倉連隊



出征兵士の見送り(1894(明治27)年佐倉駅) / 「千葉県百年のあゆみ」より

1894(明治27)年、日清戦争が起こると、佐倉の歩兵第2連隊は、9月に戦場へ赴いた。佐倉連隊は大山巖の第2軍に属し、遼東半島に上陸すると、金州、旅順、太平山、田庄台等で戦闘に参加した。

1904(明治37)年の日露戦争では、旅順要塞攻略戦や奉天会戦といった主要な戦闘に参加し、多数の戦死者を出した。

1907 (明治40)年

### 赤レンガ造りの千葉刑務所が完成



イタリア式洋風建物が特徴の千葉県刑務所 / 法務省矯正局ホームページより

1873(明治6)年7月、寒川未決監・既決監として設置された千葉監獄(現千葉刑務所)。1907(明治40)年4月10日に貝塚町へ移転。全国の主要な刑務所を手掛けた建築家・山下啓次郎による赤レンガ造りのイタリア式洋風建物が落成した。貝塚町が立地に選ばれたのは、近くに人家が少なく、鉄道と主要道から近距離なうえ、地下水が豊富で相当量の給水が可能だったためといわれる。

### 千葉県の歴史コラム

#### 千葉県の歴史を感じる県庁舎旧本館にあった噴水

1911(明治44)年に竣工された県庁舎旧本館の正面にあった円柱の噴水。台座の側面に千葉県徽章が施されており、歴史を感じるとも趣のある造りになっている。



県庁舎旧本館にあった噴水(移設前) / 千葉県文書館



銚子商業高校に移設された噴水 / 千葉県

1963(昭和38)年に県庁舎旧本館が取り壊され、翌年の1964(昭和39)年10月に銚子市にある銚子商業高校へ移築。現在では、銚子商業高校の本校舎の正門に入って正面にある池の中央にあり、教職員や生徒にとっても学校のシンボルとして親しまれている。

明治

1909 (明治42)年  
京成電気軌道会社(現京成電鉄株式会社)創立

1910 (明治43)年  
千葉町(現千葉市)に電話が開通

1911 (明治44)年  
千葉町に新県庁舎完成

皇太子(大正天皇)が県庁舎新築落成祝賀のために千葉県に行啓

柏一野田町間、成田一多古間などで全国初の県営鉄道が開通

大正

1912 (明治45/大正元年)年  
白戸栄之介、稲毛海岸で初飛行

1913 (大正2)年  
千葉県の就学率が全国平均と同率の98%に達する

1914 (大正3)年  
富津第二海堡が完成  
芥川龍之介が旅館・一宮館に滞在(1916年にも滞在)

第一次世界大戦が勃発

銚子醤油会社が創立

1915 (大正4)年  
石井菊次郎(茂原市出身)が外務大臣に就任

1916 (大正5)年  
伊藤音次郎の恵美号、稲毛海岸で初飛行  
房総各地に干害

1917 (大正6)年  
「東京湾台風」により大きな被害

1911  
(明治44)年

## 当時の建築技術の 粋を結集した県庁舎



当時の県庁舎 / 千葉県立中央博物館

現在の千葉市中央区に新しい県庁舎が落成。祝賀開庁式を開催した。ガラス張りの天窓などを取り付けた鉄骨レンガ造りのルネサンス様式の建物。柱とアーチに大理石を取り入れた耐火構造で、4年の歳月をかけた。1945(昭和20)年の空襲でも焼失を免れ、1962(昭和37)年、新庁舎(現在の中庁舎)ができるまで、県政の府として県民に親しまれた。

1917  
(大正6)年

## 近代経営組織へ転換 醤油醸造業の成長



大正初期に建設した最新設備を備えた工場 / 千葉県立中央博物館

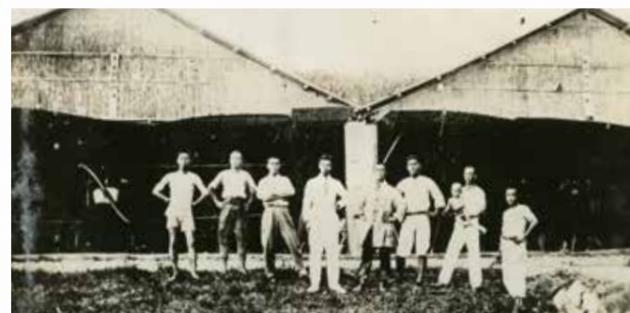
野田市の醤油の始まりは室町時代後期、飯田市郎兵衛が溜醤油を作ったことに遡る。良質な大豆、小麦、江戸湾の塩等の原料が豊富で水運にも恵まれていたため、醤油生産地として繁栄した。1917(大正6)年10月、野田と流山の醸造家8家が合同し「野田醤油株式会社(現在のキッコーマン)」を設立。商標を集約、醸造蔵の統廃合も行い、1922(大正11)年には近代的な量産工場を新設した。

1912~  
(明治45/  
大正元年)年

## 民間飛行家白戸栄之助、稲毛での初飛行と 白戸の教え子・伊藤音次郎が帝都往復飛行に成功



自作の「恵美第1型(通称・恵美1号、恵美号)」を完成させ、初飛行に成功 / 朝日新聞社



千葉・稲毛の格納庫作業場 / 朝日新聞社

1903(明治36)年にライト兄弟が動力飛行に成功して以降、日本でも動力付き飛行機の研究が行われるようになった。1910(明治43)年12月、東京・代々木練兵場において、陸軍軍人で臨時軍用気球研究会委員の徳川好敏と日野熊蔵が、日本人による国内初の動力付き飛行機での飛行に成功。1912(明治45)年には、稲毛海岸に日本初の民間飛行場が開設。白戸栄之助や伊藤音次郎らが、この飛行場で研鑽を積んで活躍した。白戸は日本人で初めて見物料を徴収する興行飛行を行った民間飛行家として人気があり、初飛行にも多くの見物客が訪れた。また、ライト兄弟の活動写真を見て飛行機に心を奪われた伊藤音次郎は、上述の白戸に飛行技術を学び、1915(大正4)年に独立。稲毛に伊藤飛行機研究所を創立した。1916(大正5)年1月8日、自らが作った伊藤式・恵美1型で初の稲毛から東京間の往復飛行に挑戦、飛行時間55分で成功。現在もこの地には民間航空発祥の地のモニュメントが残っている。

### 千葉県の歴史コラム

#### 酪農の発展

安房地方の牧畜は、戦国時代の里見氏が軍用馬育成のため、現在の鴨川市と南房総市にまたがる地域「嶺岡山」に牧場を開いたのが始まりとされている。

白牛を導入した酪農がはじまったのは、江戸幕府八代将軍徳川吉宗の頃であり、当時最高の菓餅と考えられていた乳製品「醍醐」の生産・普及のためであった。1793(寛政5)年からは新たに絞った牛乳による「白牛酪」が作られるようになった。明治初頭、伝染病により白牛は全滅してしまったことから、外部からの牛の輸入が続けられたが、1889(明治22)年に発足した嶺岡畜産株式会社がホルスタイン種を輸入して以降は、乳量の多い同種へと移行していく。

1911(明治44)年、嶺岡牧は千葉県種畜場分場として千葉県に移管されるが、これ以降1917



嶺岡牧場の様子 / 千葉県立中央博物館

(大正6)年には現在の青葉の森公園に国立畜産試験場が誘致され、さらに1927(昭和2)年には佐倉種畜場が設置されるなど、次々と施設の整備が進められていった。

これらの施設は、乳牛の改良や飼育技術の向上に大きく貢献し、千葉県は首都圏における主要な酪農県としての地位を確立。現代に至るまで安定した生乳生産を維持している。

1919 (大正8)年

スペイン風邪が日本で流行(1920年までに国内で38万人から48万人の死者)

いわさきひさや  
岩崎久彌、末廣農場(富里市)滞在のため別邸を建築

1920 (大正9)年

成東・東金食虫植物群生地(山武市・東金市)が国指定天然記念物になる

第1回国勢調査が実施(千葉県の人口133万6,155人、世帯数25万9,026戸)

1921 (大正10)年

千葉市誕生

1922 (大正11)年

鯛の浦タイ生息地(鴨川市)が国の特別天然記念物に指定

1923 (大正12)年

千葉医学専門学校、大学に昇格し千葉医科大学と改称

千葉県誕生50周年

関東大震災

野田醤油・ヤマサ醤油・銚子醤油3社が震災被災地で醤油の共同販売を開始

関東大震災を機に常磐線・成田線を使う行商が増加

1920~  
(大正9)年~

## 戦後恐慌による不景気で多くの労働争議が勃発



1928(昭和3)年4月20日、野田町の野田劇場で解決案を待つ野田争議団 / 朝日新聞社

第一次世界大戦の影響による好景気のなか、日本産業は大きな発達を見せていた。しかし大戦後の1920(大正9)年、株式市場の大暴落で始まった戦後恐慌による不景気と、関東大震災の影響で、労働者・農民の生活問題が表面化する。県内では、1921(大正10)年野田醤油に労働組合ができたが、雇用制度の改善や労働条件の向上を求め争議が勃発。その他京成電鉄、市川の帝国酒造、市川パイプ、東京毛布などの労働争議がいずれも大正末期に起こっている。

また、慢性的不況によって、米をはじめとした農産物価格の暴落で農家の所得も減少した。1925(大正14)年の南総農民組合調査によると、水田1反歩あたりの収支決算で大幅な赤字となっており、当時の農家の生活が圧迫されていたことを物語っている。

1923  
(大正12)年

## 神奈川から千葉の房総半島を震源域とした関東大震災の発生により甚大な被害



倒壊した野島埼灯台の様子 / 千葉県立中央博物館



被災した館山の市街地の様子 / 千葉県立中央博物館

1923(大正12)年9月1日11時58分、相模湾を震源とするマグニチュード7.9の地震が南関東地方を襲った。その後5分以内に同規模の揺れが2回起こり、震源域に近い千葉県南部は、揺れや火災によって壊滅的な被害をもたらす。房総半島南部の館山市北条、那古地区、南房総市、市原市の養老川沿い、木更津市、富津市その他、東葛地域の江戸川沿いの低地でも建物の倒壊等の被害が集中した。千葉県での被害の内訳をみると、建物の全半壊により2万棟近い家屋が被災し、死者は1,200人を超えた。千葉県の死者数のうち90%が安房郡、館山市内だけで県全体の54%を占めていた。さらに津波の高さは、館山市の相浜地区で9mほどあり、津波による流失、土砂崩れ等による埋没、また交通・通信を含む生活の機能がほとんど破壊された。この震災は不況にあえぐ人々に打撃を与え、日本の政治・経済・社会に計り知れない大きな打撃を与えた。

1925  
(大正14)年

## 銚子漁港の本格的な工事に着手



銚子漁港(平成27年2月撮影) / 千葉県

明治維新後、近代的漁業が著しい発展を見せ始め、銚子港は漁業の本拠地として大きく機能するようになった。千葉県を中心に茨城、福島、静岡、宮城各県の水産組合の5県連盟で「千葉県銚子港ヲ国費ヲ以テ漁港ニ整備サレタキコト」を農商務大臣に請願。政府は銚子港の重要性を認め、1925(大正14)年、県は、農林省より着工の承認を得て、第1期計画工事に着手した。

## 千葉県の歴史コラム

### アグリ網漁法による漁業の変革

アグリ網漁法とは、袋状の網を海底におろし、船をひきまわして捕る漁法である。江戸時代から隆盛を誇った九十九里浜でのイワシ漁。本格的な遠洋・沖合漁業の始まりに伴い、地曳網漁法からアグリ網漁法に代わっていき、イワシだけではなく、アジ、サバ、サンマなど、大衆向きの魚類を中心に捕っていく時代が続く。九十九里の海岸沿いには、江戸時代の地引網漁によって作られた納屋集落の面影が今も残っている。また魚を保存のきく干物加工して販売も行われ、そのため加工場も作られるようになった。



明治末期、九十九里浜でのイワシ地曳網漁の様子 / 千葉県立中央博物館



戦前期のイワシ漁の様子 / 千葉県立中央博物館

大正

1924 (大正13)年

県立中央図書館(千葉市)が開館

成田線佐原駅が全国米穀産地の駅のうち最も積出量の多い駅となる

1925 (大正14)年

京成遊園地(谷津遊園)(習志野市)が開園

野島埼灯台(南房総市)が完全復旧。新たに鉄筋コンクリートで工事実施

1927 (昭和2)年

県内各地で水不足による干害と虫害が甚大となる

県が5カ年計画で各町村役場に公用電話を架設する方向を示す

1928 (昭和3)年

普通選挙による初の県会議員選挙が実施

1929 (昭和4)年

佐倉種畜場(佐倉市)が完成

1930 (昭和5)年

県教育会館(千葉市)が完成

館山海軍航空隊創設

1931 (昭和6)年

大多喜天然瓦斯株式会社(日本初の天然ガス事業進出)

鉄道第1連隊、佐倉歩兵第57連隊が満州に派遣

水産講習所実験場が館山市から鴨川市小湊に移転

昭和

1925  
(大正14)年

## 京成遊園地 (谷津遊園)が開園



谷津遊園(撮影日1958[昭和33]年9月30日) / 朝日新聞社



谷津遊園の大観覧車 / 朝日新聞社

谷津遊園は、塩田地として使われていた海岸地帯を埋め立てて、京成遊園地として開園したのが始まりで、その後改称された。開園当時は、池や庭園、料理屋、お茶屋などがある質素な施設だったが、京成電車の電化や周辺地域の整備に伴い発展し、関東一円の観光客や地元民から好評を博するようになった。とくに昭和30年代に入るとバラ園の整備が始まり、バラの最盛期の5月には数万人規模の人々が訪れる名所として知られるようになる。

立地を生かした海水浴場や潮干狩り場、東洋一とうたわれた大観覧車、海上ジェットコースターの他、読売ジャイアンツゆかりの野球場や動物園などを擁する一大レジャー施設として栄えた。その間、ペーブ・ルースの来訪、世界一周飛行を成功させた国産飛行機「ニッポン号」の壮行会など、さまざまなエピソードを残したが、1982(昭和57)年に閉園。

現在は、同施設のバラ園が「谷津バラ園」として親しまれている。

昭和初期

## 観光地として栄える 成田山新勝寺の門前



成田山新勝寺の門前 / 千葉県立中央博物館

江戸時代、出開帳の成功や江戸歌舞伎の影響を受けて、関東一帯で成田講が広まっていた。増加した参拝者を対象とした旅籠屋や土産屋などが営まれ、門前町が形成された。鉄道網の整備に伴い、さらに多くの参拝客が訪れるようになる。写真右の建物は、東京成宗電気軌道の進出拠点として1926(大正15)年に建てられた建物。当時は宿泊施設として使用されていた。

明治期~

## 「水郷めぐり」で人気 香取市の香取神宮



戦前の大鳥居。参道沿いには土産物屋や人力車が並ぶ / 千葉県立中央博物館

香取神宮は、茨城県の鹿島神宮・息栖神社とともに東国最古の古社。日本全国に約400社ある香取神社の総本社でもある。「水郷めぐり」の観光スポットのひとつとして、明治期以降も多くの人で賑わった。津宮の利根川岸には川に向かって津宮鳥居が建ち、かつて行き交う舟の目印となっていた常夜燈が佇む。1769(明和6)年に奉納されたこの常夜燈は、利根川筋では最古のもの。

1932  
(昭和7)年

## 水産講習所実験場が 鴨川市小湊へ移転



いけすをのぞく観光客と遊覧船 / 千葉県立中央博物館

農林省水産講習所の実験場は、水産試験及び調査、水産専門者の養成を行うための施設で、寄宿舎も備えていた。1909(明治42)年、館山湾の高ノ島に「高ノ島実験場」が竣工し、1932(昭和7)年、館山市から鴨川市小湊に移転される。新設された水族館やいけすは、一般にも開放され、遊覧船も出るなど観光スポットとなった。

### 千葉県の歴史コラム

## レジャー利用で賑わう海

1888(明治21)年、千葉県初の海水浴場が開かれ、「稲毛海気療養所」が設立された。当時、海水浴は諸疾病に対する治療法として提唱されており、それに応じた施設であった。

第一次世界大戦後には、千葉海岸には地元だけでなく東京から家族連れが訪れるようになった。



海気館 / 千葉市立郷土博物館



稲毛海岸の海水浴風景 / 千葉市立郷土博物館

昭和になり、総武線が両国から隅田川を越えてお茶の水まで延長され、また京成電気鉄道が海岸線に沿って千葉まで延長され、東京から千葉に来る海水浴客は平日でも3,000人、日曜には1万人に達した。特に稲毛海岸の美しい海と松林は多くの文人や財界人にも愛され、明治・大正時代の実業家でワイン王といわれた神谷傳兵衛の別荘が今でも残っている。